

九州大学公開全学 FD（未来人材育成機構）「共創学部—その新しい取り組みと展望」 の実施結果報告

九州大学 未来人材育成機構
共創学部
基幹教育院次世代型大学教育開発拠点
未来共創リーダー育成プログラム

1. 開催趣旨

私たちが直面している現代社会課題の多くは、様々な要因が複雑に絡み合って生じたもので、一つの専門分野の視点だけで解決するのは困難な状況である。このような複雑化する現代社会が直面する問題を解決するためには、従来の専門領域にとどまることなく、多面的・多角的な視野を備え、新たな知見や価値を発見できる人材の育成が求められている。九州大学は、これらに資する自主性や柔軟性、創造性を備えた人材の育成を目指して、九州大学の総力を結集し、2018年4月に、九州大学12番目の学部として共創学部を設立した。

共創学部では、文理の枠組みを超えて、九州大学の各部局から様々な専門分野の教員が、専任教員や授業担当教員として集結し、ディスカッションや協働学習を積極的に取り入れ、文理融合、課題ベースの教育といった新たな教育を推進している。共創学部での経験は、これまでの教育手法を更に豊かにし、新たな教育の可能性を開くことが期待されており、その知見や成果を共有するため、本公開FDを開催した。

2. 実施内容

- 1) 実施日時 令和6年9月26日（木）13:30～16:00
- 2) 会場 九州大学伊都地区 センター1号館 1403講義室
- 3) 主な対象 大学教育を担当する教職員
- 4) 主催等 主催 未来人材育成機構
共催 共創学部、基幹教育院次世代型大学教育開発拠点、未来共創リーダー育成プログラム
- 5) プログラム
司会：基幹教育院 助教 古賀詩織

時間	演題	担当
13:30-13:40	開会の挨拶	九州大学 理事・副学長・プロボスト 荒殿 誠 氏

13:40-14:10	講演1：共創学部理念と成果、並びに共創教育推進センターについて	九州大学 共創学部 学部長 鑑木 政彦 氏
14:10-14:40	講演2：共創学部における課題型教育カリキュラムの考え方	九州大学 共創学部 副学部長 鬼丸 武士 氏
14:40-15:10	講演3：共創学部教育の今後の展望	九州大学 共創学部 教授 荒谷 邦雄 氏
15:10-15:20	休憩	(会場からの質問回収)
15:20-15:50	総合討論	(登壇者) 鑑木 政彦 氏 鬼丸 武士 氏 荒谷 邦雄 氏 (オーガナイザー) 九州大学 副理事 野瀬 健 氏
15:50-16:00	閉会の挨拶	九州大学 理事・副学長 園田 佳巨 氏

3. 参加状況

対面参加者：43名、オンライン参加者：76名 合計 119名

※【参考】事前申込者の学内・学外者の別

学内者：104名、学外者：12名

4. 実施状況等

九州大学 理事・副学長・プロボストの荒殿先生からの挨拶に引き続き、3名の講演が実施された。休憩を挟んで、3名の講演に対する対面参加者からの質問を参考にしながら後半の総合討論を実施した。オーガナイザーの野瀬副理事から「共創学部一番の魅力は?」「共創学部の変えたい点は?」などの質問が投げかけられ、また、会場からの「共創教育推進センターの今後の役割や展望は?」といった質問にも登壇者が回答し、その回答を踏まえながら、会場の参加者と登壇者との間で活発な意見交換がなされた。最後は、教育担当理事・副学長の園田先生から挨拶をいただき、盛況のうちに会を終了した。

本FD全体への感想等については、37名の参加者から終了後アンケートの回答があった。本FDへの満足度は、おおむね満足・満足との回答が80%を超え、参加者の満足度は高かったことがうかがえる。理由としては、「共創学部の活動などについて知ることができた。」「(講演者の) 忌憚のない意見が聞けた。」等が挙げられており、講演者が率直に現状を語った点が好評だったようである。一方で、普通と回答した人は14%程度で、もう少し共創学部やその教育について具体的な話も聞きたかったという様子がうかがえた。また、やや不満・不満と回答した参加者も5%程度

いたが、「音声が良い聞こえなかった」等が理由となっており、今後、このようなFDを開催するうえで、運営側の準備の徹底が必要である。

「わからなかった点やもっと説明してほしい点」「その他コメント」等へのアンケート回答状況からも、具体的な話を更に聞きたかったとの様子がうかがえ、今後、共創学部の成果を全学に還元することを推進するうえで、これらの意見が参考となる。

【FD 会場の様子】 ※役職は FD 開催時のもの



荒殿理事・副学長・プロボスト



鎚木学部長



鬼丸副学部長



荒谷教授



園田理事・副学長



総合討論の様子 (右端: 野瀬副理事)

5. アンケート結果（一部抜粋） ※アンケート回答へのご協力ありがとうございました。

1. 参加者

	学内者	学外者	登壇者等	合計
対面	29	1	13	43
オンライン*			0	76
			合計	119

*集計方法の関係上、オンラインは学内者・学外者の別不明

【参考】事前申込者の学内・学外参加者の別

学内者：104名、学外者：12名

2. アンケート結果（回答数37名）

①本講習会については、何でお知りになりましたか。

メール	23
会議での通知・資料	2
FDポータル	2
教授会や学部内でのアナウンス	6
共創学部教員から直接	2
未回答	2
合計	37

②本講習会には、対面とオンラインのどちらで参加されましたか。

対面	15
オンライン	22
合計	37

③本講習会の満足度について一つ選択してください。

不満	1
やや不満	1
普通	5
概ね満足	15
満足	15
合計	37

○そのほか、寄せられた主なご意見等（良かった点、参考になった点、もっと聞きたかった点等）

- ・共創の教育方針をよく理解できました。九大全体の教育との接続についての考え方も参考になりました。
- ・共創学部の先進的な取り組みを知ることができた。今後の学部の在り方を考えるきっかけになった。
- ・従来とは異なる文理融合型学部の組織運営の実態（全学出動体制）や難しさなどに関して新たな視点を得ることができた。
- ・共創学部の過去・現在・そして将来目指す姿が順を追って説明されたので分かりやすかったこと、そして質疑応答で活発な意見交換がなされて、九大全体への波及についても理解が深まったことから満足度は高かった。総合討論にもう少し時間が取れればもっとよかったと思った。
- ・優秀な学生の獲得がなによりも重要であることが理解できた。一方で、教授する側の教員のマインドやスキルについては改善が必要であると感じた。
- ・九大の取組の内容は理解できたが、それを他大学や外部の機関がどう捉えているか、外部者の視点から述べる方が参加されているとなおよかったように感じた。
- ・共創学部以外の人材（外部人材、研究者だけでなく、企業、NPO、地域活動家）などを如何に取り込み、学生の学びや先生の研究につなげていくかという視点が重要だと感じます。